

北海道札幌中真分園

八田三郎



某字印金連卷下

印  
之  
木  
字  
之  
印  
物  
也

古河の陣...  
中

久田を...  
分都

江...  
好

さ...  
細

り...  
海

緩...  
橋

上...  
橋

と...  
使

割...  
人

に...  
橋

上...  
橋

山...  
橋

平...  
橋

江...  
橋

付...  
橋

取...  
橋

何さどう話一はみうんサキ

奴らもマ〜とあるも

的定的にあたり審をた〜た

く〜も白ふつ物らもるさつ

控一子怪ル旨傳の供りぬ

く〜を極す既入つよあ

んさき〜日公とふま村と

人〜今〜こ西行〜

井〜ら〜ワ〜共〜は〜

介〜月〜一〜極〜と〜

受の留守をさ〜ち〜古城

ル世田の然日〜甘茶田〜

治〜は〜あ〜小〜は〜と〜

成〜は〜何〜れ〜

成に行かぬが新ク入る

先利直り男〜

にさ内系加及〜

あせぬとありん、友系に

〜は〜

先利直り一男ヲ替ル

にさ内系加及對任及下、名は

あせぬとあり、  
友系に依

りさつけーはりやれど却て

好言(由弟より)り揮毫と

共したこの感きり、  
に在つた

るるあしやま、  
さるるの

上林中は  
何調多の

月中旬に完全な  
種めなは

九月一日各  
行とれ

十月一日  
の

之、公  
た

るる  
るる

るる  
るる

るる

るる

田乙